

■ 国木田独歩 詩人、小説家。浪漫的な「武蔵野」から現実を見据える作品に進み、自然主義の旗手と目されるも、早世。

くにきだどっぼ

廃藩置県・・・1871＝ 千葉県銚子で、明治初年に藩船で漂着した播州竜野藩士国木田専八と地元の淡路まんとの間に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 2歳：

佐賀の乱・・・1874＝ 3歳：父に連れられ、まんとともに、上京し、下谷の旧竜野藩邸内に住む。

父が司法省の役人となったことから、

三つの内乱・1876＝ 5歳：父の赴任地、山口に移り、

以後、萩・広島・岩国と、近傍を転々とする間、山口県で育つ。

・・・・・・1880＝ 9歳：

明治14年政変 1881＝10歳：

錦見小学校簡易学科、

山口今道小学校を経て、山口中学校に入学。

国民之友始・1887＝16歳：学制改革で退学になると、父の反対押し切って、上京、

初の対等条約 1888＝17歳：東京専門学校英語普通科に入学。維新に興味を抱き、学生運動に加わり、徳富蘇峰から影響受けるが、

帝国憲法発布 1889＝18歳：一転して文学の道を志すようになり、{女学雑誌}{青年思海}に投稿。

帝国議会始・1890＝19歳：英語政治科へ転じる一方、キリスト教会に通うようになり、植村正久を崇拜し、

足尾鉞毒始・1891＝20歳：受洗。学校改革と校長への不信から同盟休校行い退学。山口の家族のもとで、近所の子に英語を教える。山口の家族のもとで、

大本教・・・1892＝21歳：家庭教師に行った家の娘と恋仲になり、求婚するもその両親に反対され、失意のうちに、上京。

郡司千島探検 1893＝22歳：日記「欺かざるの記」を起筆。佐伯の鶴谷学館の教師となるも、クリスチャンであることを嫌われ、

日清戦争始・1894＝23歳：退職。\*浪漫主義の同人誌{青年文学}に参加し、国民新聞社に入社。日清戦争の従軍記者として「愛弟通信」を連載して、一躍有名になる。

日清戦争終・1895＝24歳：帰還後、佐々城信子と知りあい、はげしい恋愛の末結婚。貧窮のため、両親と同居するうち、

白馬会・・・1896＝25歳：妻が失踪して離婚となり、衝撃を受け、日記「欺かざるの記」も終わる一方、詩人的資質に目覚め、民友社系の{国民新聞}{国民之友}に浪漫的な詩を発表。

八幡製鉄始・1897＝26歳：宮崎湖処子、松岡(柳田)国男らとの共著詩集「抒情詩」にまとめられる。小説の処女作「源叔父」を発表。

子規句歌革新 1898＝27歳：下宿の大家の娘と結婚。\*二葉亭四迷に刺激され、「今の武蔵野」「忘れえぬ人々」を{国民之友}に発表。

Bushidou・・・1899＝28歳：生計のため、再び新聞記者として、{報知新聞}に入社。この年、父が国元の妻と正式に離婚成立。

ピアノ国産化・1900＝29歳：星享の発行する機関紙{民声新報}の編集長となるも、

田中正造直訴 1901＝30歳：星が暗殺され、退社。困窮のため妻子を実家に預け、西園寺公望のもとに身を寄せたり、作家仲間と共同生活。\_それまでの作品収めた短編集「武蔵野」刊行。「牛肉と馬鈴薯」、

教科書疑獄・1902＝31歳：この頃から、柳田国男・田山花袋らと談話会を始める。

日比谷公園・1903＝32歳：「運命論者」。創刊された月刊グラフ雑誌{東洋画報}の編集長に抜擢され、

日露戦争始・1904＝33歳：\*日露戦争が起こると、{戦時日報}と改名されるとともに、有能ぶりを発揮して、売上を伸ばす。「春の鳥」なども、好評を博す。

日露戦争終・1905＝34歳：戦後に備えて、次々新雑誌を企画するも、\_終戦と同時に、{戦時日報}の売上激減で解散となる。「牛肉と馬鈴薯」などの短編集「独歩集」刊行。

満鉄発足・・・1906＝35歳：「運命論者」などの短編集「運命は」刊行。自ら独歩社を創立して、刊行続けるも、

韓国反日暴動 1907＝36歳：破産。自らも肺結核に冒されるなか、「運命は」が高く評価され、自然主義の旗手と目され、

アヲキ創刊・1908＝37歳：\*「窮死」「竹の木戸」などを発表するが、病状悪化し、没した。